

令和 7 年度 指定管理者評価表

【別紙 5】

施設名：林業総合センター 木根館

指定管理者名：大阪府森林組合

1. 個別評価

評価項目	評価の視点	自己評価	市評価
サービスの提供	施設の設置目的に沿って平等利用が確保されたか。	S	S
	施設の設置目的に沿ってサービスを提供しているか。	S	S
	利用時間、利用日、利用期間は遵守されているか。	S	S
	利用者に対する情報提供、情報発信は適切か。	A	A
	利用の承認、案内等は適切かつ迅速か、また接遇は適切か。	A	A
	利用者のニーズを把握し、改善、工夫を行っているか。	A	A
	施設の利用率は適正な水準にあるか。	A	A
	苦情等の対応は迅速かつ適切か、また市に迅速に報告しているか。	A	A
	指定管理者が行った自主事業は、市民サービスの向上に役立ったか。	A	A
施設等の維持管理	不具合が生じた場合の市への報告は適切か。	S	S
	建物躯体及び設備機器の点検・保守、安全確認等は適切か。	S	S
	修繕は適切か。	S	S
	備品の管理は適切か。	S	S
	清掃、警備、衛生管理は適切か。	S	S
労務状況	サービス提供及び施設の維持管理のため、計画どおり適正な人員が配置されているか。	S	S
	勤務体制が、勤務者の休暇、休憩等の取得が適正か。	A	A
	必要な専門的資格、技術を有する人材を確保しているか。	A	A
	従業員に対して、計画的、効果的な人材育成を行っているか。	A	A
	労働諸法を遵守しているか。	S	S
危機管理	緊急時に備えた、体制、対応マニュアル、研修・訓練等は適切か、また、防火、防犯体制の整備、研修、訓練等は適切に行われているか。	A	A
	災害、事故、盗難等の発生時に迅速な対応ができる組織体制と連絡体制になっているか。	A	A
	利用者の安全は確保されているか。	A	A
個人情報	個人情報保護のための体制、書類等の整備・保管、問い合わせ等への対応、研修は適切か。	A	A
	個人情報保護及び情報公開に関する関係法令を理解しているか。	A	A
	万が一、個人情報が流出した場合の対応が検討されているか。	A	A
財務状況	管理に要する収支は適正に保たれているか。	A	A
	支払いの遅滞は生じていないか。	S	S
	使用料、利用料金収入は計画どおりか。収入の増加が図られているか。	A	A
	現金は適正に取扱われているか。	A	A
	経費は縮減されているか、または、縮減に向けての努力がされているか。	A	A
	業務を外部委託している場合、その業務は施設管理の主要な部分以外であるか、過度に外部委託にシフトしていないか。	S	S
その他	省エネルギー、省資源、環境配慮物品等の購入など環境への配慮はなされているか。	A	A
	良好な関係を保つべき関係団体や地域との連絡調整は適切か。	A	A
	管理に要する法令は適正に遵守されているか。	A	A
	市との定例の連絡調整の機会が確保されているか。	A	A
	事業計画書（申請時）および年間事業計画書どおりに管理がなされているか。	A	A

評価欄の説明

S：協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。

A：協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。

B：協定等を遵守し、概ね仕様書に沿った管理が行われたが、一部に課題がある。

C：一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。

2. 収支報告

単位:円

		事業計画A	事業実績B	A-B	前年度実績	備考
収入	利用料金収入	700,000	679,800	20,200	725,600	
	自主事業収入	5,000,000	4,801,983	198,017	4,258,245	
	物品販売収入			0		
	手数料収入			0		
	指定管理料	10,770,000	10,770,000	0	10,770,000	
	その他収入		87,136	-87,136	18,222	
	収入総額	16,470,000	16,338,919	131,081	15,772,067	
支出	人件費	10,318,000	11,106,799	-788,799	10,699,053	
	事務費	2,552,000	2,775,065	-223,065	2,620,702	
	管理費	406,560	377,908	28,652	698,539	
	自主事業経費	1,870,000	1,799,314	70,686	1,768,404	
	光熱水費	1,210,000	1,188,478	21,522	1,308,140	
	リース料	33,660	25,806	7,854	33,660	
	その他	0		0		
	支出総額	16,390,220	17,273,370	-883,150	17,128,498	
収支差額		79,780	-934,451	1,014,231	-1,356,431	

3. 総合評価

自己評価

多目的実習室については、小学校や放課後デイサービス、福祉施設等の団体利用が多かったことや、インターネット予約の「席だけ予約」が好調であること、また「ヒノキのお箸づくり」体験が増加したことなどから、利用者数の目標値を超えることができた。一方で奥河内ワークショップに関しては、従来実施してきた内容に加えて、新作の開発や体験を中心としたワークショップの実施などを企画実施したが、定員に満たないことがあった。定員に満たない理由を分析し、令和8年度には改善していきたい。昨年実施された大阪・関西万博関連イベントには積極的に参加し、木根館やおおさか河内材のPRに努めた。

施設面においては、老朽化による雨漏りや木製タイルの腐食などが進み、不具合が発生する都度、スタッフが修繕を実施しているが、修繕が難しい場合もあり、今後は市と協議しながら、利用者の安全確保のため取り組んでいく必要があると考えている。

全体運営としては、1年を通し、市やスタッフ間の連絡を密にとり、適切な管理、対応を行うことができたと考えている。

収支について、昨年度と比べ木工室エアコン入替、管内LED化により電気代減少となったが、人件費・物価高騰により費用はかさんだ。木工室の利用者数も増やすことを考え、外部注文数・展示販売数を増やせるように努力したい。

市評価

様々な事業により来館者が37,000人を超えたことは望ましい。多目的実技実習室の稼働率も平均89.3%と高く、効果的な事業実施がなされたものと捉える。次年度は指定管理期間最終年度ということで、これまでのノウハウを活かし、稼働率や収益の増となることを期待する。